

# 日本ウニコット協会 Newsletter

Vol.7 2022

## 目次

ウニコット・フォーラム 2022 「「環境」について考える」 .....	1
リレーコラム「ウニコットの「中間領域」について」（恒吉 徹三） .....	5
「ウニコット研究」投稿募集.....	7
協会からのお知らせ.....	10
編集後記.....	12

ウニコット・フォーラム 2022

## 「環境」について考える

ウニコットは、人のところが環境とのかかわりのなかで発達する、と考えました。つまり彼の情緒発達理論は、対象との関係で捉えるものです。それらを概念化したものとして、錯覚-脱錯覚の理論、抱えること、ほどよさといったことばを私たちは知っています。この「環境」について、考えてみたいと思いました。たび重なる災害、Covid-19、ロシアのウクライナ侵攻。私たちは今、急激な脱錯覚、抱えられないこと、ほどよくないこと、のなかを生きています。今改めてこの概念を考えると、これまで私たちが思っていたようなウニコットの考えに、異なる側面を見出せそうな気がするのです。みなさまにもぜひその議論に加わってくださるよう、お願いいたします。

ウニコット・フォーラム 2022 は、2022 年 11 月 20 日（日）に、大阪市内のたかつガーデン（定員 20 名）とオンライン（定員 200 名）で開催します。大会のテーマは、「『環境』について考える」にしました。大会企画シンポジウム・特別講演は会場+オンラインのハイブリッドで、会員企画シンポジウムはオンラインで、事例検討は会場で開く予定です。1 ヶ月前の Covid-19 の感染状況を見て、会場開催はできないと判断した場合には、すべてオンライン開催とし、事例検討は中止します。また本大会では上に挙げたとおり、新たな試みとして、会員の企画によるオンラインシンポジウムを募集します。概要については、下記をご覧ください。皆さまのご応募・ご参加をお待ちしております。

### 記

日時：2022 年 11 月 20 日（日）10:00~17:50

会場：オンライン（定員 200 名）

+たかつガーデン（大阪府大阪市天王寺区東高津町 7-11）（定員 20 名）

参加資格：守秘義務のある専門家に限ります

参加費：会員 ¥5,000/非会員 ¥6,000/大学院生 ¥3,000

会場費：3,000 円（現地開催の際に、会場に参加される方にかかる費用です）

申込方法：以下の Google フォームからご登録いただきます。

<https://forms.gle/9aDkEQG5Utnv9KfB7>

申込締切：2022 年 11 月 13 日（日）

お問い合わせ：winnicottforum@gmail.com

参加可能な方に受諾のご連絡と参加費の振込先をメールいたします。

※お問い合わせ、その他ご連絡は基本的にメールで行います

※会場開催とオンライン開催それぞれについて、日本臨床心理士資格認定協会の定める資格更新ポイントを申請する予定です

プログラム

10:00~10:05 開会のあいさつ

10:05~12:30 **大会企画シンポジウム「環境」について考える**（オンライン+会場）

シンポジスト

中村 留貴子（千駄ヶ谷心理センター）

西依 康（自治医科大学 精神科/精神腫瘍科）

増尾 徳行（ひょうごこころの医療センター/上本町心理臨床オフィス）

指定討論：生地 新（まめの木クリニック）

司会：石田 拓也（追手門学院大学）

星野 修一（京都大学大学院博士後期課程）

12:30~12:45 総会

12:45~13:30 休憩

13:45~15:00 **特別講演 「環境」とシステム論**（オンライン+会場）

館 直彦（たちメンタルクリニック）

司会：日下 紀子（ノートルダム清心女子大学）

15:00~15:15 休憩

15:15~17:45 **会員企画シンポジウム**（オンラインのみ※後日アーカイブ配信あり）

**事例検討**（会場のみ）

事例提供：片山 貴美子（そうしん堂レディスメンタルクリニック）

助言：中村 留貴子

西依 康

司会：渡部 京太（特定医療法人群馬会 群馬病院）

増尾 徳行

17:45~17:50 閉会のあいさつ

**ウニコット・フォーラム 2022  
会員企画シンポジウム 募集要項**

ウニコット・フォーラム 2022 では、新たな試みとして、会員の企画によるシンポジウムを募集します。概要は、つぎのとおりです。皆さまのご応募をお待ちしております。

**概要**

会員企画シンポジウムは、ひとつの主題について数人のシンポジストが異なる視点から発表をしたあと、聴衆との質疑を行ないます。主題は心理療法（個人・集団等）、応用的実践、文化・芸術論など、どのようなものでもかまいませんが、精神分析に根ざした議論をしていただくことを基本とします。同時時間帯に、最大 2 つの企画を並行して開催する予定です。

10:00	12:30	12:45	13:30	15:00	15:15	17:45
大会企画シンポジウム	総会	休憩	特別講演	休憩	会員企画シンポジウム1	
					会員企画シンポジウム2	
					事例検討	

時間は、2 時間 30 分です。企画者には、討論する主題、登壇者（発表、指定討論、司会など）、当日のシンポジウム運営をコーディネートしていただくこととなります。

また登壇者は、協会会員であることを要件とします。非会員のかたが登壇される場合は、企画応募時に入会申し込みも同時に行なってください。

**応募と採否について**

応募はメールで受け付けます。添付例を参考に、以下の内容を記してください。

- 1 企画シンポジウムのタイトル
- 2 企画者・登壇者の a 氏名, b フリガナ, c 所属, d シンポジウムでの役割
- 3 企画趣旨（800 字程度）と発表者の抄録（各 800 字程度）

発表者の抄録には、3～5 語のキーワードを付してください。

（非会員の登壇者がいる場合、別添で入会申込書）

応募原稿はワードプロセッサを用いて、Word ファイルを作成してください。ファイルは電子メールに添付して、winnicottforum@gmail.com までお送りください。件名は「会員企画シンポジウム申し込み」としてください。応募締め切りは、**2022 年 8 月 31 日（水）**とします。採否については、2022 年 9 月 30 日（金）までに応募されたメールアドレスへお送りします。

どうぞよろしくお願いいたします。

(応募例)

- ・ シンポジウムタイトル
  
- ・ 企画 ○○ (マルマル) ○○大学  
司会 △△ (サンカクサンカク) △△病院  
発表 □□ (シカクシカク) □□クリニック  
発表 ☆☆ (ホシホシ) ☆☆大学  
発表 ●● (クロマル) ●●病院  
指定討論 ▲▲ (クロサンカク) ▲▲クリニック

・ 趣旨

趣旨や概要, 進行などについて 800 字程度で記してください。

・ 抄録

タイトル 1

□□ (シカクシカク) □□クリニック

キーワード:

抄録を 800 字程度で記してください。

タイトル 2

☆☆ (ホシホシ) ☆☆大学

キーワード:

抄録を 800 字程度で記してください。

タイトル 3

●● (クロマル) ●●病院

キーワード:

抄録を 800 字程度で記してください。

(指定討論演者の抄録は, 必須ではありません。)

## リレーコラム

## ウニコットの「中間領域」について

山口大学教育学部 恒吉徹三

ウニコットの「中間領域 (intermediate area)」の概念は、文化的なこととも関わりがあり、映画が好きな私にとって魅力的です。けれど、コラムのテーマとして考え始めると、どこから手をつけるのかと難しくなり、原稿を放り出して映画館に行きました。館内のポスターを見て、内容も知らずに奥田裕介監督の『誰かの花』を観ました。たまたま最終上映日で、奥田監督や、夫が事故にあう妻役の和田光沙さん、その息子役の太田琉星さんの舞台挨拶がありました。この作品は、団地の上の階の住民の植木鉢が、強風の日にベランダから落ち、たまたま下を歩いていた別の住民に当たる事故をめぐって、登場人物それぞれの想いを細やかに描いています。落下するような場所に植木鉢を置いた人が悪い、と片づけてしまいそうですが、それでは映画も終わってしまいます。どうしてこの事故が起きたのか、責任は誰にあるのかとハラハラし、事故をめぐって疑心暗鬼になる家族と同じようにどっちつかずの考えに私もはまりこみました。監督の舞台挨拶では、「被害者」になることは、一方で「加害者」にもなりうることから着想を得たことや、白と黒の二つに単純に分けられるものではなく、間にグレーがあることの重要性についてコメントされたことは、割り切れないことを重視するという臨床的なことともつながり、私には印象的でした。白と黒の間にあるグレーは、「内と外と『その間』」と表現されている中間領域を連想させます。どちらでもあり、どちらでもない。このあいまいさは、どちらにも取れることから、どっちなのだろうと考える隙間を与えてくれます。空間があることは、遊ぶこともつながっていきます。

さて、この中間領域、ウニコットは『精神病と子どもの世話』（1952）の中で、ミルクが欲しいと乳児が思うちょうどタイミングで、繰り返し養育者がミルクを与えることで、乳児は自分が乳房を創造したのだと錯覚するようになり、さらに移行対象にも置き換わりながら、もっと後には芸術なども含んだ文化的な領域へと広がることを図で示しています。この論文には図が10枚も出ていて、他の論文の図が省かれていなければですが、『児童分析から精神分析へ』（北山修監訳、1990）に掲載されている論文の中で最も図が多用されています。なぜこれほどまでに図が必要だったのでしょうか。二重丸のように、手書きされた二つの円で示された図には、自ら動いて環境を発見することができる、後に環境からの侵襲があっても受け入れられるが、もし、侵襲が自発的な自己の動きよりも先に起きると、自己は自発的ではない反応として応答し、孤立へと撤退することが言葉でも

説明されています。この最初の図で、外的環境は外側の円の凹みまたは図の背景として示されているのだと思うのですが、そもそもの未分化な状態での出来事であることを図と地の関係で巧みに描いています。その次の図は、個人（乳児）と環境（乳房・養育者）とその間に位置付けられた錯覚と、錯覚と置き換わっていく移行対象、さらに、外的現実と主観的現実の間にある中間領域について示された2枚の図が続き、中間領域の発達過程を追うこともできます。その後の図には、環境への迎合により「偽りの自己」となることが描かれています。このように、図を見ていくと、そこにゆっくりとした自己の動き、外から勝手に押し込んでくる環境の失敗としての侵襲など、動きや動きに拮抗する力を感じ取ることもできます。つまり、動きや動くために必要な空間について描き出そうとして図を描いたのかもしれませんが。

こんなふうに、あーでもない、こーでもないで中間領域について考え、ウイニコットの著作も読み、映画をみては考え、そして今原稿を書いていることそのものが、中間領域を体験していることだとふと気づいて、ちょっと楽な気分になりました。中間領域は、日常生活と地続きで、ちょっと離れてもいて、でも近くにいて、という空間なのでしょう。それに、「終わり」があることも、中間領域を楽しむには大切なことだと改めて実感します。規定の枚数をちょっと超え、締め切りまで5時間を切ったところですが、これまでに。

#### 文献

D.W.ウイニコット（1958）：児童分析から精神分析へ、ウイニコット臨床論文集Ⅱ，北山修（監訳）（1990），岩崎学術出版。

## 「ウニコット研究」投稿募集

## 「ウニコット研究」投稿募集

この度、当会では、日本ウニコット協会雑誌「ウニコット研究」を発刊いたします。投稿論文の募集も開始いたしますので、下記の投稿規定をご参照ください。なお、投稿規定は協会 HP にも掲載しております。会員の先生方からの積極的な投稿をお待ちしております。

## 日本ウィニコット協会「ウィニコット研究」投稿規定

### 1. 投稿資格

投稿は原則として、日本ウィニコット協会正会員、顧問に限る。

### 2. 投稿条件

論文内容は未刊行のものに限る。

### 3. 採否

論文の採否、掲載順などは編集委員会が決定する。

### 4. カテゴリー

投稿する論文のカテゴリーは以下の通りである。

論考：ウィニコットや独立学派精神分析の実践や芸術，その関連領域における，理論，概念，歴史や文化的背景などについての著者独自の見解を提起する論考。12,000字以内を目安とする。

総説：特定の主題についての学問的動向を遠望し，筆者独自の論考を示した論文。12,000から28,000字以内を目安とする。

原著：個人・集団の心理療法や心理検査による臨床研究，観察研究，質的研究，実証研究，また文化や芸術領域等における論考であり，独立学派精神分析とその関連領域についての著者独自の主張が提起されている論考。12,000字以内を目安とする。

著者は投稿の際，掲載を希望するカテゴリーを表題の前に明記すること。

### 5. 図表

図表，写真などは図1・表1と順序を付け，それぞれに和文で題をつける。文字数の制限に図表は含まない。

### 6. 原稿の作成

原稿はワードプロセッサを用いて作成する。A4用紙に横書き，40字×40行を目安に原稿を作成すること。

### 7. 外国語の表記

人名，地名等の固有名詞は原則として原語を用いる。

(例：Winnicott, D, W / Freud, S / London)

## 8. 引用

文献の主著者のアルファベット順に番号を付し、本文中にその番号を適当な個所に付す。肩付きで (1) (2) のように記載する。本文の末尾に「文献」という表題にて文献リストを付し、文献を番号順に記載する。各文献は、雑誌に掲載された文献については、著者名、発行年、題名、誌名、巻、ページの順、単行本の場合は、著者名、発行年、書名、出版社名、発行地の順に掲載する。

(例)

(1) 妙木浩之 (2021) : Laplanche の「謎のメッセージ」. 精神分析研究 65 (4) , 369-375

(2) Bollas, C. (1979) : The Transformational Object. International Journal of Psychoanalysis 60, 97-107

(3) Patrick Mahony. (1987) : Freud as a Writer. Yale University Press. 北山修監訳 (1996) : フロイトの書き方. 誠信書房, 東京

(4) Winnicott, D. W. (1968) : The use of an object and relating through cross identification. In Winnicott, D. W. (1971) : Playing and Reality. Basic Books, New York. 橋本雅雄訳(1979) : 遊ぶことと現実. 岩崎学術出版社, 東京

## 9. 表題等

表題、著者名、著者所属、5語以内のキーワードをつける。

## 10. 要約

原著については、本文はじめに 800 字程度の邦文要旨を付す。

## 11. プライバシー

クライアントのプライバシーに十分配慮せねばならない。臨床研究においては、その情報は修飾することとし、経過の詳細等よりも主張の独自性を重視する。

## 12. 投稿の方法

投稿の際は、論文の電子データを（原則として Microsoft の Word 形式）を電子メールの添付ファイルとして、日本ウイニコット協会事務局（jwasecretariat@gmail.com）宛てに送信する。

## 協会からのお知らせ

### 研修会・協会共催事業のご案内について

日本ウニコット協会では、ウニコットおよび独立学派に関する研修会や、協会共催事業を会員の皆さま宛てにご案内させていただいています。

つきましては、会員の先生方が主催されている研修会などで、会員の皆さまにご案内したい内容がございましたら、協会事務局宛てにメール【[jwasecretariat@gmail.com](mailto:jwasecretariat@gmail.com)】にてご連絡ください。理事会にて審議の上、承認された場合、協会ホームページの「研修会情報」への掲載と、メーリングリストでの配信をさせていただきます。

なお、メールの件名を「研修会（協会共催事業）掲載希望」とし、本文に研修会の詳細をご記入ください。フライヤーの画像データやPDFなどがあれば、そちらも添付していただければ掲載いたします。

## 協会からのお知らせ

### 年会費納入のお願い

2022年度（2022年4月～2023年3月）の日本ウニコット協会の年会費の納入についてご案内いたします。納入会費は下記のとおりですので、まだお振込みでない方は、下記口座に振込をお願いいたします。

#### 記

○年会費：5,000円

○納入方法：銀行振込（送金手数料は自己負担でお願いします）

振込先：りそな銀行上六支店

口座番号：普通口座 0370321

口座名義：日本ウニコット協会

\*必ずお名前をご明記ください。

\*職場名義での振込み等される方は、ご一報くださるようお願いいたします。

ご不明な点がございましたら、協会事務局までご連絡ください。

## 編集後記

新年度がはじまり、環境が変化した先生方もおられるのではないのでしょうか。そして、「環境」といえば、今年度のウイニコット・フォーラムのテーマですね。

私はこの「環境」という言葉から、小学校のときの夏休みの自由研究のことを思い出しました。学校から持ち帰った朝顔の鉢の傍に、早咲きコスモスの種を植えた鉢を2つ置きました。一つは日向に、もう一つは日陰です。私は夏休みの間、せっせと3つの鉢に水をやって、2つのコスモスの成長の具合を毎日絵に描いて、日付と天気を書いたノートに貼っていきました。当然のことながら、日陰に置いたコスモスは、花咲くことなく枯れてしまいました。くたっとしてしまった茎を、茶色のクーピーで描くのが嫌で、途中から咲いた日向のコスモスしか描かなくなりました。当時は「お日様って大事なんだ」くらいにしか思いませんでしたが、日が当たらなければ枯れますし、日が強すぎても枯れてしまいます。何かが育つためには、ほどよくなくてはいけないということなのだろうと思います。

今回のウイニコット・フォーラムは、ハイブリットでの開催予定です。どちらが日向で、どちらが日陰というものではないにせよ、オンラインと現地とでは何かしらの違いはあるのでしょうか。それぞれがそれぞれで面白い展開になるのだろうと思います。会員企画シンポジウムも募集しておりますので、ぜひご応募ください。

(奥田久紗子)

---

2022年4月26日発行

日本ウイニコット協会 Newsletter vol.7

編集：石田 拓也

奥田 久紗子

発行：日本ウイニコット協会

日本ウイニコット協会事務局

e-mail：jwasecretariat@gmail.com

HP：https://winnicottforum.com

〒543-0001

大阪府大阪市天王寺区上本町6丁目6-26 上六光陽ビル601

たちメンタルクリニック・上本町心理臨床オフィス内

---